

## 令和5年度 第3回 三木市中小企業振興審議会議事録

- 1 日時・場所 令和5年12月18日(月) 午後6時00分から午後7時20分  
市役所4階 特別会議室
- 2 出席者 <委員6名>  
西井会長、五本上委員、川西委員、小林委員、廣田委員、三村委員  
<事務局6名>  
赤松産業振興部長、能出商工振興課長、  
三又商工振興課係長、田中商工振興課係長、  
平井商工振興課係長、小阪商工振興課主事  
<オブザーバー1名>  
正木中小企業サポートセンター長
- 3 欠席者 2人
- 4 会議の公開、非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 開 会
- 7 議 事

会長	本日の議事の(1)、「第3次三木市中小企業振興のためのアクションプランで取り組む施策について」を事務局から説明願います。
事務局	資料1「SWOT分析、課題、基本方針の整理について」、資料2「第3次三木市中小企業振興のためのアクションプランで取り組む施策について」を説明
会長	先ほどの説明に対して、ご意見・ご質問はありませんか。
会長	三木金物ブランド戦略事業についてお尋ねします。先日地域団体商標「三木金物」の活用について伺う機会がありましたが、現在の状況では、全面的な見直しが必要ではないかといった印象を受けました。

事務局	<p>製品認定と企業認定という二種類の認定方法がある中で、現在は企業認定の方法を採用されておりますが、「三木金物」の商標が印字されていることが、本当に品質保証に繋がっているのかという点について、疑問を感じています。この点について、三木市としてはどのような考えをお持ちでしょうか。</p> <p>三木金物ブランド戦略事業につきましては、令和3年度から取り組んでいる事業です。基本的には海外展開への支援が目的の事業ですが、令和3年度は新型コロナウイルスの影響により、海外の展示会の出展自体ができなかったこともあり、海外市場向けの英語バージョンのホームページを作成しました。令和4年度、5年度については、作成したホームページを活用し、海外の展示会への出展に対して支援をしております。</p> <p>来年度以降については、また違った形での海外展開支援を検討し、予算化をしていきたいと思っております。</p>
会長	<p>海外市場向けのホームページも拝見しましたし、展示会の出展についても効果があるように思います。ただ、地域ブランドの団体商標を取得されていますので、それをどう戦略的に展開していくかということが必要であり、行政がしっかりとしたビジョンを持って、業界と連携していく必要があると思います。</p> <p>地域ブランドをどのように戦略的に活用していくのか、といった意識をより持っていただいた方がいいように思います。</p>
委員	<p>卵が先か鶏が先かという話になりますが、市が三木金物というブランドを盛り上げていくのか、あるいは個々の企業が三木金物を育てあげていくのかというバランスがあると思います。</p> <p>三木金物というブランドを安売りしてもレベルが下がってしまうので好ましくなく、逆にハードルを高くし過ぎてしまうと普及していかない。</p> <p>お互いに伸ばすことのできる、ブランド力を強化するための策が必要のように思います。</p>
会長	<p>この目標設定は具体的な数値目標ということでよろしいのでしょうか。目標値となると少し難しいように思います。</p>
事務局	<p>数値目標は難しいところがあるため、どのようなことをしていくのかという行動目標としたいと考えております。</p>
委員	<p>人手不足については、労働人口の減少は既に目に見えている状況で、三木市だけを増加させることは考えにくい。ですので、AIも含めたITの導入により補完していくという戦略が不可欠のように</p>

	<p>思います。資料の2枚目「2 中小企業の経営力強化」のところに生産性の向上の項目がありますが、人手不足への対応策として盛り込み、補助金、助成金のような手当をしていくことが、最も現実的のように思います。</p> <p>また、先端設備等導入計画の認定のところで目標値が設定されておりますが、この目標値にはどのような意味があるのでしょうか。事業者に積極的に先端設備を導入してもらい、新しい取り組みをしてもらうことが一番の目的であると思います。市はそれに対して固定資産税を軽減するということで、それに対しての目標を立てる意味があるのだろうかと思います。目標値が20件となっておりますが、目標値の達成に向け、制度の啓発を行っていくといったことでよいでしょうか。</p>
オブザーバー	<p>先端設備導入計画の認定については、設備投資とリンクされるものと考えております。経営力強化のための設備投資を市として推進していくという観点から、設備投資を考えている企業に対しては、この制度を紹介し、固定資産税の特例も活用して、生産性の向上をめざすということが趣旨になります。</p> <p>まず経営力の強化のために設備投資を推進するという目標があり、そのために先端設備導入計画の制度を周知します。目標値の達成をめざし、積極的に制度の利用を呼び掛けていくという趣旨で、ここに挙げております。</p>
委員	<p>最も重要なことは、先端設備の導入により生産性を向上し、人手不足の解消に繋げることです。それに対する支援として固定資産の特例が受けられるということを十分周知して、申請数を増やしたいということです。新たな設備を導入したにもかかわらず、この制度を知らなかったというケースを減らしてもらいたいと思います。</p>
会長	<p>人手不足への現実的な対応策としては、設備投資による省力化のほか、外国人の雇用ということになってくると思います。技能実習ではなく、正社員で外国人の方を雇い入れる動きがかなり出てきています。現実的な対応策となると、どちらかしかないように思います。</p> <p>もちろん三木市を知ってもらう取り組み、例えば金物を通じて三木市を知ってもらい、訪れていただくというようなことが正攻法だと思いますが、他の自治体も同じようなことをしています。それでは結局自治体間の競争になってしまうので、本質的なところで人手不足の解消となると、生産性の向上か、賛否両論があると思います。外国人の正社員雇用のどちらかしか現実的にはないよう考えます。</p>

委員	<p>吉川町でも一番の問題は人手不足です。若い方だけでなくシルバーの方であっても手伝って欲しいというような状況です。人手不足の対応策として、何か充実した施策をお願いしたいとは考えております。</p>
会長	<p>今の若者たちの働き方ですが、アプリやサービスが大変充実しており、短期のアルバイトをすぐに探すことができます。例えば、旅館でたまたまお客様が多く泊まれ、ホールで人手が足りないというような情報がすぐにインターネット上で公開され、それに応募して2、3時間だけ働くというような働き方もできるようになっています。あくまでアルバイトレベルの話にはなりますが、そのような取り組みは進んでいるように感じています。これはスマートフォンのアプリを使いこなす必要がありますが、実はこのようなマッチングはシルバーの方にも可能ではないかと思っています。</p> <p>一方で、長期の正社員としての雇用となるとやはり厳しい。これは三木市に限った話ではなく、国全体の問題だと思います。</p>
委員	<p>これまで商社は比較的人材が採用しやすい業界でした。メーカーの場合は油などを使い、立ち仕事も多いということで、若い人材が集まりにくいという傾向が昔からありましたが、最近は商社であっても本当に人材が来なくなっています。ものづくりは楽しいというイメージをもっとアピールしていかないと、働き手が集まらないように思います。</p> <p>また、奨学金の支援制度ですが、弊社に片道2時間をかけて通勤している若い社員がいます。理由を聞くと奨学金の返済があり、自宅から通勤しないと生活できない、車を買うことも難しいとのことでした。従業員への奨学金返済支援制度の活用は現実に求められているように感じます。</p> <p>海外展示会出展への支援について、来年の3月にケルンの展示会があり、今回は多くの企業が出展すると聞いています。ただ、激しい物価高騰で何もかもが高がつき、費用負担の面から出展を止められる企業もあります。人員を派遣するのに、これまでの倍以上の費用がかかってしまうというような状況です。それに加え、展示貨物の輸送にあたっては、パレスチナとイスラエル、ロシアとウクライナの問題が影響しており、海上輸送期間が著しく延び、また到着予定が読めない状況です。海上輸送では貨物が展示会に間に合わないというようなことも起こっています。</p> <p>世界情勢が刻一刻と変わる状況のため、海外展示会への出展については、柔軟により一層の支援をいただければありがたい。</p>
会長	<p>海外展示会への出展はそのような状況でも、出展するメリットが大きいということでしょうか。</p>

委員	<p>これまでオンライン中心で成果が作りにくい状況にあった中で、実際に出展することで世界の工具業界の現状とニーズが把握できるというところと、関連する事業者が集まる場で商談ができるというところは、大きな魅力です。</p> <p>国内市場が縮小する中で、円安ということもあり、海外に展開していくしかないというメーカーがかなりおられます。ただ物価高騰が進む中で、行きたいという気持ちはあるものの・・・、というのが悩みどころのように思います。だからこそ、市のバックアップをいただければ弾みがつくように考えます。</p>
事務局	<p>三木金物ブランド戦略事業については、新規事業として新年度予算を要求しているところです。委員からの市からのバックアップをというお言葉もありましたので、実現に向けて努力させていただきます。</p>
委員	<p>多くの企業が新聞折り込みで求人を出していますが、今の若者は新聞を購読しなくなっています。若い年代の者を雇用したい時に、新聞折り込みで求人を出すとそういった年代の者から応募がないというようなことがあります。ですので、企業としてもそういったミスマッチが生じない募集方法を研究する必要があると考えています。</p> <p>また、三木市では求職者の数が非常に少ないように思います。当社で雇用している大卒の社員は、大阪出身の者ばかりです。その社員には住宅手当を支給しており、その分地元の大卒の社員と比べると、月に数万円程度が多く必要になりますが、求める人材が地元にはないのであれば、それも仕方がないと考えています。</p> <p>ですので、三木市にも移住促進の制度がありますので、その制度をもう少し活用できないものかと考えます。三木市の場合は、月に4, 5万円の家賃で部屋を借りることができますので、その半分を補助することも考えられると思います。人口が増えれば税収や消費にメリットがありますので、そういった支援があってもいいように考えます。</p>
会長	<p>移住定住の支援によって三木市に来られる方というのはどのような方が多いのでしょうか。</p>
事務局	<p>移住定住となると、職を求めての移住というよりは、住まいを求めて移住してこられる方が多いような印象です。特殊な例としては、こどものゴルフの練習のために神戸から移住してこられた方がおられます。その他、農業をするために移住してこられる方、また他市に住んで農業をするために三木に通っておられる方もいらっしゃいます。</p>

事務局	<p>やいます。</p> <p>三木市出身の大学生については、市としても多額の予算を投じて育てたこども達が、進学で市外、県外へ転出し、そのまま現地で就職してしまうという状況があります。非常に難しい部分ではありますが、市の方針としては三木市で育ったこども達が結婚し、こどもが生まれたときに、三木市で教育を受けさせたいと思えるような教育を作り上げていこうということで、小中一貫校の構想を打ち上げるというような努力をしております。</p> <p>また、地元の大学生に三木市の企業を知ってもらうため、関西国際大学の学生を対象に、授業の一環として三木市の企業の説明会を開催しました。残念ながら関西国際大学の学生は市内どころか県外出身の学生が多く、逆に就職で地元に戻ってしまう学生が多いようです。三木市にあるのはスポーツに特化した学部のため、めざすところが違うというようなことも大学の先生がおっしゃられておりましたが、たとえ1人、2人でも三木市の企業を知ってもらい、三木市の企業に就職してもらえるような方策を考えて取り組んでおります。</p> <p>若い人にどうやって市内の企業へ興味を持ってもらうかということに苦慮しておりますが、例えば先ほど委員がおっしゃられた奨学金の返済支援というの、実は既に制度がございます。ただ、利用件数が少なく、企業にも負担分があったということがその要因のようです。来年度からは県の支援制度が拡充されることもあり、その制度と協調しながら企業負担の部分を支援するような仕組みも考えております。今の学生は200万、300万の借金を背負って卒業する方が多くいらっしゃいますので、そういった方の支援にもなりつつ、三木の企業の魅力アップにも繋げることができればと思います。その制度が開始した際には、当然市としても広くPRいたしますが、企業の方でも一つの魅力として活用していただければと思います。</p> <p>奨学金返済支援で検討している内容は、雇用開発協会が請け負っている事業に協調したものとなります。現行制度は年間返済額が18万円の場合、そのうち県負担が6万円、企業負担が6万円、個人負担が6万円といった制度です。新たな制度では12万円を県が負担し、残りの6万円を市の方で負担するような形を考えております。補助期間が5年間ありますので、合計で90万円を県市協調で支援するというような制度設計で検討しております。先ほど申し上げたように、1人あたり平均で300万円の奨学金を借りており、これを全額市で支援することは難しく、県の制度に協調する形を検討しています。</p> <p>また、兵庫労働局と連携した雇用対策、就労支援も行っております。労働局に聞いたところによりますと、今の学生はワークライフ</p>
-----	--

<p>会長</p>	<p>バランスを非常に重視するようで、ユースエール認定企業やくるみん認定等の情報をよく見ているということも聞いております。そういった認定制度の活用をめざして、市内の事業者にはワークライフバランスの情報誌の送付を通じてPRに努めてはおりますが、なかなか取り組みが進んでいないというのが正直なところではあります。</p> <p>今までと異なるタイプの人に定着して働いてもらうには、UIJターンの取り組みが必要のように思います。私の知る範囲では、例えば田舎暮らしを希望する人は、長い目で見れば地域の活力になるような方であると思いますが、地域で勤めるといった企業の人材確保には中々つながりにくいような気がします。採用して仕事をしてもらうということであれば、先ほどの家賃補助のような現実的な支援が効果的のように思います。</p> <p>また、兵庫県立大学が無償化となれば、その影響も出てくるのではないかと考えます。大学がどのように地域と連携していくかですが、有名な例でいいますと長野県に松本大学という大学があります。大学と地域で人を育てるということをコンセプトにしており、かなり地域に密着し、卒業後もそれなりに地域に学生が定着しているようです。同じような取り組みに関西国際大学や兵庫県立大学が乗ってきてくれば、というようなことは思います。</p>
<p>委員</p>	<p>取り組む施策の最後に空き店舗への出展支援とありますが、支援の対象となりそうな空き店舗は市内にあるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>商店街に限れば貸出可能な店舗はほとんど入居している状況で、今は商店街から離れた店舗についても支援対象として拡充している状況です。</p> <p>ですので、市内で空き家が増えているのと同様に、空き店舗も増えておりますので、対象の店舗は多くあるという状況です。</p>
<p>委員</p>	<p>ここでいう店舗というのは、商店街でなくてもいいという意味なのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>年間の支援目標を2件としておりますので、仮に競合した場合、商店街の店舗が優先されることにはなりますが、基本的には商店街だけに限らず、全般的な支援という形になっています。</p>
<p>委員</p>	<p>年間目標を2件に制限することには意味があるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>この事業は商工会議所及び商店街連合会が持っている基金と市とで、半分ずつ負担し合うものです。元々商店街活性化のための基金を使ってやっておりますので、予算の限りがあるため、2件として</p>

委員	<p>います。</p> <p>商店街連合会が商店街としてみなしている組織はどちらになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>振興組合として残っているのは、サンロード商店街のみになります。組合自体は解散していますが、商店街として活動を続けているのは、自由が丘のプリンスロードと、明盛、ナメラ、大和名店街になります。</p>
委員	<p>ナメラ商店街は住宅化が進んでおり、不動産業者が土地を購入し、宅地開発しようという動きがあるという話は聞いたことがあります。</p> <p>そうなってきますと、商店街としてもう成り立たなくなってしまう部分があるかと思いますが、そちらに関しては市としてどこまでできるのでしょうか。</p>
事務局	<p>店舗と家が一体化している物件は、なかなか新陳代謝をしない、空いても次に貸し出さないというところが多いです。これはどこにでもある問題なのですが、ナメラ商店街については特にその傾向が強いように思います。</p> <p>ナメラ商店街の中でも観光の視点を意識して、綺麗に整備されている店舗もあります。市が商店街の集まりに出向いた際には、まず商店街がどうなりたいかを皆様にお聞かせいただくようにしていますが、その方向性がまだ見出せていないように感じております。</p>
委員	<p>空き店舗というのはどのように把握されているのでしょうか。</p>
事務局	<p>商工会議所と商店街連合会、三木市での三者で、商店街パワーアップ事業というのをやっております、この事業で空き店舗の情報を把握しております。</p> <p>ただ、商店街の中でもそちらの方に載せたくないという方も当然いらっしゃいます。そういった方の意向については、商店街パワーアップ委員会の方に伝えていただいております。</p>
会長	<p>空き家の実数を把握することは大変難しく、これは日本全体に当てはまることです。例えば分筆で土地が細かく分かれ過ぎていて、売りたいけどどうしようもないということや、建築許可が下りないということも多々あり、こういったものは不動産業者が使うデータベースにも掲載されていません。空き店舗も同様です。</p> <p>ただ、このようなことに関しては、中小企業への支援というよりも、町の再開発の話になりますので、この審議会での審議は難しい</p>

	かと思えます。
委員	アクションプランの33ページに貸出可能店舗が6店舗とありますが、この6店舗に対して、市が施策を実施しようという解釈でよろしいでしょうか。
事務局	市も含めたパワーアップ委員会として取り組もうと考えております。
会長	それでは、意見も出尽くしたようですので、本日いただいたご意見をアクションプランに反映させていただきます。続いて、議事の(2)、「今後のスケジュールについて」を事務局から説明願います。
事務局	資料3「今後の策定までのスケジュールについて」を説明
会長	先程の説明に対して、ご意見・ご質問はありませんか。  —質問無し—
	それでは、ご意見ないようであれば、次に、議事の(3)、「第3次三木市中小企業振興のためのアクションプランの素案について」を事務局から説明願います。
事務局	第3次三木市中小企業振興のためのアクションプランの素案について説明
会長	事務局の説明が終わりました。このアクションプランの素案につきましては、事務局の説明のみとさせていただきます。ご意見・ご質問等あるようでしたら、事務局までお願い致します。 これにて本日の議事は終了致しました。委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。長時間にわたりご協議を賜りありがとうございました。これにて議事については、事務局にお返しいたします。